

感性工学の視点によるP I 事例調査

香川大学工学部 正会員 白木 渡
愛媛大学工学部 正会員 ○二神 透
国土交通省四国地方整 正会員 守屋正平
四国インフラ研究所所長 正会員 椎野佐昌

1. はじめに

土木学会四国支部では、平成9年6月に発足した「四国社会資本問題研究会」の第一部会、「四国における市民参加型公共事業の進め方に関する研究会」を中心に、四国の公共事業を対象とした事例調査とP Iの成果・問題点を整理してきた¹⁾。一方、公共事業における住民参加型計画を進めるためのツールとしてPCM(Project Cycle Management)を用いたP Iを提案し、徳島県小松島港ワークショップ等に援用している。以上の経緯のもと、平成13年度に、本研究会では、市民参加型公共事業の進め方において、公共事業を円滑に進めていく上で、事業実施者の視点に感性工学を取り入れた評価項目の提案と事例調査を実施した²⁾。

本稿では、紙面の制約上、感性工学の視点からみたP Iについての概要を記するとともに事例調査について簡単な考察を行う。

2. 感性工学の視点によるP I

感性工学とは「人間が持っている願望としてのイメージや感性を、物理的なデザイン要素に翻訳し、具体的に設計する技術」³⁾のことで、本研究会では、P I参加者の感性工学的視点に立ち心理学的アプローチをもとに、P I実施者側からの「感性工学の視点によるP I評価の項目」（以下、K P Iと略記）を表1のとおり提案している。K P Iの特徴は、情報提供を行うことでP I実施者と住民の情報の共有化が深まることをマトリックス形式で明示化している点にある。例えば、表1の行項目は、P I達成度の深度を表している。すなわち、情報提供（理解度1）から変化を造る（理解度5）へ進むほど達成度が高いことを意味する。一方、列項目は情報提供、場の提供、理解による意識変化というように、情報の共有化の深度を表す。

表1 感性工学の視点によるP I評価の項目・K P I（評価主体がP I事業者の場合）

長町によるP Iの原理	【情報提供】 意識：報提供やきっかけ 行動：きっかけ	【場の提供】 意識：理解する場の有無 行動：行動の場の有無	【意識変化】 意識：理解による意識変化 行動：行動の結果
理解度1： 情報提供－見せる・知らせる	●【情報提供・きっかけ】	●【情報発信の場】	●【フィードバック】
理解度2： 疑問解消－疑問を持つ・歩み寄る	●【疑問解消の情報提供・きっかけ】	●【疑問・質問の場】	●【疑問の解消】 ●【フィードバック】
理解度3： 自我関与－意見陳述・議論参加	●【意見議論のための情報提供・きっかけ】	●【意見・議論の場】	●【意見の有無】 ●【フィードバック】
理解度4： アイデア提供－具体案・設計への関与	●【アイデア募集の情報提供・きっかけ】	●【アイデア募集の場】	●【アイデアの有無】 ●【フィードバック】
理解度5： 変化を造る－Self-Designing	●【参加者による意志決定のための情報提供・きっかけ】	●【P I参加者の意志決定の場】	●【意志決定の有無】 ●【フィードバック】

3. ヒアリングによる事例調査

事業実施者によるP Iの達成度ならびにP Iに関する知見を得ることを目的として、実事業に対するヒアリング調査を実施した。ヒアリング項目を表2に、ヒアリング対象を表3に示す。

表 2 ヒアリング項目

設問番号	項目	内容
設問 1	ヒアリング実施者	所属、氏名（複数名の場合、複数名記入）
設問 2	ヒアリング対象者	所属、氏名（複数名の場合、複数名記入）
設問 3	調査対象の P I 物件について	P I の名称等
設問 4	P I で特徴的な事項や経緯について	①「関心層」に関して／② P I の参加者の範囲について／③ P I 開始時の前提条件について／④ P I に参加、実施して／⑤ P I での反省点・改善事項や提案／⑥ P I に参加、実施しての感想
設問 5	「P I の理解度」についてのヒアリング	【表 1・K P I】を 5 段階で評価／4：十分な取り組みをした、3：取り組みをした、2：取り組みが少なかった、1：取り組みをしなかった、0：取り組み不明

表 3 ヒアリング対象

県	開始時期	名 称	関係行政	P I の種類	調査番号	ヒアリング対象者
香川	1997 年 10 月	牟礼町まちづくり	牟礼町	懇談会	①	組織団体
	1998 年 01 月	サンポート高松色彩舗装色（レンガ）	高松市	委員会・アンケート	②	行政
	1999 年 12 月	サンポート高松色彩塗装色（防護柵）	高松市	アンケート	③	行政
	1999 年 04 月	ボランティア公園づくり	善通寺市	協議会	④	行政
	1999 年 04 月	歩いて暮らせるまちづくり	善通寺市	ヒアリング、協議会	⑤	行政
	2000 年 6 月	魅力ある商店づくり	善通寺市	ワークショップ	⑥	行政
		みんなのたまり場づくり事業	善通寺市	委員会	⑦	行政
愛媛	1995 年 11 月	足谷川溪流砂防計画	愛媛県	委員会	⑧	行政
	2000 年 04 月	光満川河川整備計画検討	愛媛県	検討会	⑨	行政
高知	1994 年 10 月	若草南団地の建替を考える会	高知県	WS・学習会	⑩	専門家
	1996 年 10 月	ユーザー参加方式による道の駅「四万十大正」	高知県	WS	⑪	専門家
	2001 年 04 月	里山公園つくらんかい	高知県	委員会・WS	⑫	行政
徳島	1998 年 08 月	新町川河畔光景観プロムナード	徳島県	WS	⑬	専門家
					⑭	行政
	1999 年 10 月	小松島港本港地区活性化	運輸省、徳島県、小松島市	利用企画調査委員会 検討委員会、懇話会、WS	⑮	専門家 A
					⑯	専門家 B

4. 調査結果と考察

四国の P I 事業についてヒアリング調査を行った結果、表 2 の設問 5 に着目して考察すると、理解度 1 の評価の高い事業は、計画の早い時期での情報の共有化が行われているため、全体的に評価が高くなっている。一方、計画のスキームの一部を決定する事業に関しては、理解度 5 を中心に P I が展開されているなど、P I 事業の目的により評価が異なっている。今回のアンケート結果より、さまざまな目的を持つ計画の各プロセスにおける情報の共有化の重要性を具体的に示すことができたと同時に、計画と情報の複雑性・多様性を改めて提起している。

5. おわりに

本稿では、感性工学の視点を取り入れた事業実施主体からみた P I 評価項目を提案し、実事業についてヒアリング調査を実施した。それらの結果、事業と P I の理解度・深度を定量的に把握するとともに、P I に関する現場の声という貴重な情報を得ることができた。今後、得られた情報をさらに整理し公開することにより、今後の P I 事業を行う上の知見として寄与できると考えている。

<参考文献>

- 1) 社団法人土木学会四国支部・社会資本問題研究委員会：『P I に関する平成 9 年度～12 年度、各報告書』参照
- 2) 社団法人土木学会四国支部・社会資本問題研究委員会：『四国地方の市民参加型公共事業の進め方に関する調査研究・報告書』、平成 14 年 3 月
- 3) 長町三生：『感性工学－感性をデザインに活かすテクノロジー』、海文堂、平成元年 11 月 30 日初版